

今月の野菜



産地紹介：愛知県 JA愛知みなみ ～消費動向を見据えたカラフルな新品種を 栽培するカリフラワー産地～

愛知みなみ農業協同組合 青果農産部 青果販売課
課長 田中 恒光

1. 産地の概要

愛知みなみ農業協同組合（以下「JA愛知みなみ」という）は愛知県の南部、渥美半島に位置し、田原市全域を管内としている。東は豊橋市に接し、南は太平洋に臨み、西は伊良湖水道を経て伊勢志摩に対し、北は三河湾に面している（図1）。渥美半島は、中央部を東西に標高200メートル前後の赤石山系の延長部が貫き、これらを境に太平洋側と三河湾側に区分される。地質は第4紀古層に属し、洪積台地が多く、砂壤土、壤土、植壤土、植土が散在しており、耕地は一般にせき悪で、酸土が強く有機質に乏しい。

気候は、暖流の影響で冬期も暖かく、年平均気温はおよそ16度である。雪を見ることはまれで降霜日数も極めて少なく、降水量は年間平均1700ミリ前後である。冬期は北西の季節風が平均5メートルと強いが、寒気は比較的弱い。直接外洋に面しているため潮風による塩害を受けやすい。

管内では、昭和43年の豊川用水の通水により、恵まれた気候と農業技術の進歩に加え、農家の高い営農意欲により規模拡大が進んだ。用水型畑作や施設園芸など、近代的な農業が推進され、米、野菜、花き、果樹、畜産と多岐にわたり、特色ある農畜産物を供給している。

図1 JA愛知みなみの位置図（愛知県田原市）



JA愛知みなみの田原洋菜部会は、洋菜類野菜を中心に生産する農家で結成され、カリフラワー、ブロッコリー、玉レタス、サニーレタス、グリーンリーフレタス、セルリー、レッドキャベツ、ちんげんさいを栽培している。部会の歴史は古く、昭和41年の結成から今年で55年目を迎えた。部会員数は236人で、そのうちカリフラワーの栽培者は20人である。耕作面積は12ヘクタール（昭和60年頃は栽培面積100ヘクタール）で、カリフラワーは主に旧田原町（市の東側）の地域で栽培されている。

同部会の令和2年度の販売高は18億1400万円となっており、そのうちカリフラワーは7000万円である。

2. 栽培概要

栽培では16品種が導入され、^{はしゅ}播種は7月中旬から、定植は8月中旬から始まり、

秋冬作の出荷は10月～翌年の4月上旬頃まで行われる（図2）。春出荷は11月下旬に播種、12月下旬頃に定植し、出荷期間は5月中旬から5月下旬である（写真1）。

花蕾^{からい}の白色の度合いが出荷等級に影響を及ぼすため、花蕾に直射日光が当たって黄化しないよう、本圃^{ほんぼ}の管理として、花蕾がピンポン玉大になったら葉を結束するか、内側の葉2枚程度を折り曲げて花蕾に被せることを推奨している。



写真1 収穫期のカリフラワー

図2 カリフラワーの栽培カレンダー（主な栽培品種）

田原洋菜部会

作型	品種名	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
1	雪まつり	○	○		■								
2	福月		○	○		■							
	知月		○	○		■							
3	輝月（例①）		○	○			■						
	輝月（例②）		○	○			■						
4	寒月		○	○				■					
	雪月		○	○				■					
5	晩月93		○	○							■		
	N-124			○	○						■		

○：播種 ○：定植 ■：収穫

3. 新品種の導入

消費動向も見据え平成19年頃よりロマネスコ、近年ではカリフラワーオレンジ、カリフラワーパープル、カリフローレなどの新品種を導入し、販売者の要望に対応している（表1、写真2）。

彩り豊かな新品種は食卓を華やかにしてくれることから、特にクリスマスシーズンの需要が高く、その時期には注文数が増える。

4. 出荷

栽培しているカリフラワーは白色（輝月・雪月など）、オレンジ、パープルと多岐にわたるため、生産者からシーズン作付け計画を提出してもらい、計画的かつ安定的な出荷を励行している。

収穫の翌朝出荷を基本としているが、暖候期は朝収穫したものを当日の夕方出荷に切り替えるなど、品質保持のため集出荷場での荷受け時間を変えている。気温が高い時には、真空予冷、冷蔵庫での貯蔵、運送時における冷蔵対応なども行い、コールドチェーンによる鮮度保持に努めている。

出荷時の荷姿は段ボール出荷であり（写真3）、家庭選別で色、病害虫被害、花蕾の損傷などを入念に確認し、集出荷場では選任の検査員（JA職員）が無作為での抜き取り検査を行い、品質確保に努めている。

平成24年度には適期収穫、収穫作業の軽減、販売形態の変化に対応し、出荷規格を8キログラム段ボールから6キログラム段ボール（中心玉数8玉）へ変更した。

表1 田原洋菜部会で栽培している新品種のカリフラワー

ロマネスコ	カリフラワーオレンジ	カリフラワーパープル	カリフローレ
			



写真2 生産を始めて3年目の品種「カリフローレ」の品質確認（目ぞろえ会）



写真3 出荷時の荷姿（6玉用の段ボール）

5. 販売

主な販売先は京浜、甲信越、中京地区で、計画出荷に努め、卸売市場との連携を密にしている。カリフラワー、ブロッコリー、玉レタス、サニーレタス、グリーンリーフレタス、セルリー、レッドキャベツ、ちんげんさいの8品目を揃える同部会では、総

合品目として販売することが可能で、さまざまな顧客ニーズ・卸売市場への販売要望に応えている。

また、宣伝活動として、部会インスタグラム、ホームページを開設し、定期的に情報発信も行っている。

◆一言アピール◆

部会の合言葉は「守る品質・築く信頼、一人ひとりがⓂの力」（「Ⓜ」とは「田原」のこと）。長い部会の歴史の中でこのように言われ続けています。

田原市のカリフラワーは歯ごたえがあるコリコリとした食感と、味はクセがなく、ほんのり甘いのが特徴です。

生産者の努力により栽培された、当部会の白雪を連想させる美しいカリフラワーのほか、カラフルな新品種も是非、ご賞味ください。

◆お問い合わせ先◆

担当部署：愛知みなみ農業協同組合 青果農産部 青果販売課

住 所：〒441-3613 愛知県田原市古田町岡ノ越6-4

電話番号：0531-34-0040 FAX番号：0531-34-0044

ホームページ：<http://www.ja-aichiminami.or.jp/>